

下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)検査説明・同意書

1.目的と必要性

大腸内視鏡検査は内視鏡(カメラ)を肛門から挿入して直接観察する検査です。ポリープやがんの早期発見にはもっとも有効な検査と言えます。必要な場合には病変組織を採取し、病理組織検査により良性か悪性などを診断します。

2.検査前投薬、前日及び当日の注意事項

□検査1週間前からピコフェルミン錠を朝・昼・晩3回服用していただきます。

□検査前日

- ・検査前日は午後9時までに夕食を済ませて下さい。
- ・眠前(21時から22時が目安)にガスコン2錠を服用後、下剤(ピコスルファートナトリウム液10ml 1本)をコップ1杯の水に溶かして飲んで下さい。

□検査当日

・朝は絶食です。

ご自宅でガスコン2錠服用後、サルプレップ(下剤)480mlと水かお茶 2Lを飲んでからご来院いただきます。(右記参照) ➡ 別の下剤が処方される場合もあります。

排便し、便が水の様な状態になると検査の準備は完了です。予約時間にご来院下さい。

検査着に着替えていただき鎮静剤や鎮痛剤の注射を行います。

検査を開始します。所要時間は 30～60 分の予定です。(胃カメラも行う場合やポリープ切除などで変わります。)

検査後はベッドで休んでいただいてから、検査結果の説明をいたします。

金属、アクセサリ類ははずしてご来院下さい。入れ歯がある方は入れ物をご持参になり入れて下さい。 ➡ ポリープを切除する時、感電の危険があります。

3.検査後の注意事項

検査当日は**車、バイク、自転車の運転は控えて下さい(帰宅後も)**

検査当日の飲酒は控えて下さい。ポリープを切除した場合は、切除面からの出血のリスクがある為、1週間は飲酒や激しい運動は控えてください。

4.偶発性

当院では安全で正確な検査を心がけておりますが、精密な検査ほど偶発性の頻度が増加します。薬剤によるアレルギー、前処置(下剤内服)に伴う腸閉塞及び腸穿孔、大腸内視鏡検査や組織検査による出血や穿孔、鎮静剤や鎮痛剤による呼吸状態の悪化や血圧低下などの偶発症を起こす場合があります。大腸内視鏡検査での偶発症発生率は 0.078%、また、生検を含めた観察のみの大腸内視鏡検査にて、発生率は 0.012%と報告されています。偶発症が発生した場合は最善の処置・治療を行います。

5.生命保険の保険金について

ご加入の生命保険によっては、保険請求できる場合があります。ご加入の生命保険会社にお問合わせ下さい。診断書が必要な場合は受付にお伝え下さい。(※診断書料が別途かかります)

6. ポリープ切除、生検などで組織検査をした場合は、約 2 週間後に結果を聞きにご来院下さい。

大腸内視鏡検査を受ける方へ 事前準備

正確な検査を行うために、腸をきれいにしていただきます。

繊維質の多いものは避けていただき、消化の良いものを取っていただきます。

※事前準備をしっかりとしないと検査に時間を要したり、検査が受けられない場合もあります。

【検査 1 週間前】 ピコフェルミンを朝・昼・夜に 1 錠ずつ服用していただきます。

★検査前日は「検査食」+水分多めで。「検査食」が食べられない方は「お勧めメニュー」を少なめに。

【検査前日 お勧めメニュー】



【検査前日 寝る前】



【検査当日】 **朝食は摂らないでください。(水は可)**

※サルプレップ服用前にガスコン2錠服用して下さい。

サルプレップの服用のしかた



スマートフォンやタブレットでも視聴できます。(水 1ℓと説明がありますが 2ℓは飲みましょう)

以下の各ステップでは、コップ1杯(約120ml)あたり約10分かけてゆっくりお飲み下さい。



追加服用していただく必要があるかもしれませんので、医師に相談して下さい。



便の状態はこう変わっていきます。よく見ましょう